公益社団法人諏訪教育会
平成29年5月30日(火)

教育会だより No.2

＜定期総集会特集＞

「諏訪に学び、諏訪に育ち、諏訪からはばたけ！」

～ 好天に恵まれた爽やかな1日、充実した研修日となりました ～

5月20日(土)、諏訪市文化センターにおいて、平成29年度 諏訪教育会定期総集会が厳粛且つ盛大に開催され、平成29年度の私たち諏訪教育会が力強くスタートしました。大勢の会員の先生方にご参集いただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

午前の研修講座では、8つの研修会場で、今後の実践につながる体験型の研修や、『探究 諏訪の自然』の魅力を伝える発表が行われました。研修講座に続き、学校発表では、四賀小学校の長年にわたる歯科指導の取組の発表、音楽委員会のすばらしい歌声の発表が行われました。さらに、午後の季節大学会では、絵本作家の宮西 達也先生を講師にお迎えし、「ティラノのやさしさ･ニャーゴのおもいやり」と題し、ご講演をいただきました。多くの一般の方々にもご参加いただき、 宮西先生の魅力に引き込まれる大変有意義な時間となりました。

なお、総集会･季節大学会の様子については，諏訪教育会ホームページ等に掲載されますのでご覧下さい。以下に会長挨拶と各研修会の様子を簡単に紹介いたします。

◇会長挨拶(抜粋)◇ (平成29年度諏訪教育会長 藤木 一弘)

本年度 諏訪教育会テーマ 「より据える より深める より開く」 ～ 創造 と 協調 ～

21世紀の社会では，急激な社会変化への対応力が求められる中、子どもたちを取り巻く新たな問題への対応も迫られており、眼前の問題対応に追われ、焦りを感じることもあるのではないでしょうか。

しかし、いつの時代にも、その時々に、社会の変化に伴う新たな課題は山積していたことでしょう。諏訪教育を築いてきた先人･先輩方は、その都度、自分自身を厳しく見つめ直し、真摯に研修･研鑽に努めてこられました。その自らの実践に裏付けられた重き言葉を見聞きする度に、先人の教育に対する謙虚で崇高な精神、情熱に、感動と畏敬の念を抱かずにはいられません。

私たちは、何のために研修に取り組むのでしょうか。子どもらの教育に携わるものとして、専門性と人間性を磨き高めるために取り組むことは言うまでもありませんが、私は「教育者として自由になるため」だと思うのです。教職に就き、初めて子どもたちの前に立ったとき、子どもの問いかけに身がすくみ、何をどうしたら良いのか分からず右往左往の境地であったことを思い出します。分からないことは苦痛であり、暗闇の中にいることは不安です。苦痛や不安に満ちた心は不自由です。

研修は、そんな暗闇に一つ一つ明かりを灯してくれます。書物に学び、先輩に学び、同僚に学び、何よりも子ども自身に学び、次第に教職に就く者としての自由を獲得していく取り組みだと思います。

学ぶということは、なんと楽しいすばらしいことでしょう。

研修は本来、自由に生きるために自主的に求めていくものであり、仲間が集い、磨き合い、高め合い、支え合う諏訪教育会の存在価値がまさにそこにあるのだと思います。

そんな諏訪教育会の研修の成果が、また一つ実を結びました。それがこの「探究 諏訪の自然」です。本書が多くの児童生徒の目に触れ、自然に関心を抱き探究する心が触発される一助となるよう願ってやみません。

本年度の諏訪教育会テーマは「より据える より深める より開く」を継続し、特に本年度は ～創造 と協調～ という視点から充実を図りたいと考えました。

諏訪教育会活動の中核をなすのは、各部各委員会の活動に他なりません前年度踏襲に縛られることなく、新たな視点、豊かな発想を生かして、会員自身が「楽しい」「わくわくする」「やってよかった」「勉強になった」と思える委員会活動を創造･展開していきましょう。